

## 41. フタル酸ジシクロヘキシル

### 使用量およびその推移

使用量は100t(1998年)で前年(100t)と比較して横這いであった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(冬季)	0/170	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査(夏期)	0/12	ND(<0.2) μg/L
	建設省実態調査(秋期)	0/12	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査(冬季)	3/48	ND(<10) - 16 μg/kg
	建設省実態調査(夏期)	0/11	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査(秋期)	0/11	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	0/20	ND(<0.77)ng/m <sup>3</sup>

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(夏季)	0/130	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査(前期)	0/5	ND(<0.2) μg/L
	一般水域・重点水域調査(秋季)	0/275	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査(秋季)	4/152	ND(<10)-170 μg/kg
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	7/178	ND(<0.38)-4.9ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 (魚類)	一般水域調査(秋季)	0/141	ND(<10) μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	0/27	ND(<0.1-0.4) μg/L
底質調査	0/27	ND(<10-50) μg/kg

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られ  
なかった。

5. **まとめ**

水質及び大気調査における測定値は検出限界値未満であったが、底質調査の一部  
で検出された。底質調査で測定された最高値は、1.平成 10 年度の測定値を下回  
っていた。なお、平成 10 年度の大気調査において一部で検出された。

## 42. フタル酸ジエチル

### 使用量およびその推移

使用量は700t(1998年)で前年(700t)と比較して横這いであった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(冬季)	5/170	ND(<0.1)-0.7 μg/kg
	建設省実態調査(夏期)	0/12	ND(<0.2) μg/L
	建設省実態調査(秋期)	0/12	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査(冬季)	0/48	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査(夏期)	0/11	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査(秋期)	1/11	ND(<10) - 18 μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	20/20	1.0-6.5 ng/m <sup>3</sup>

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(夏季)	5/130	ND(<0.1)-1.1 μg/L
	建設省実態調査(前期)	0/5	ND(<0.2) μg/L
	一般水域・重点水域調査(秋季)	4/275	ND(<0.1)-0.3 μg/L
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<0.2) μg/L
	野生生物影響実態調査(コイ)	0/3	ND(<0.2) μg/L
	野生生物影響実態調査(カエル類)	0/19	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査(秋季)	1/152	ND(<10)-22 μg/kg
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<10) μg/kg
	野生生物影響実態調査(コイ)	0/3	ND(<10) μg/kg
	野生生物影響実態調査(カエル類)	0/12	ND(<13-70) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
	野生生物影響実態調査(カエル類)	0/7	ND(<15-24) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	82/178	ND(<1.7)-18ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 (魚類)	一般水域調査(秋季)	0/141	ND(<10) μg/kg
野生生物	影響実態調査(コイ)	0/145	ND(<10) μg/kg
	影響実態調査(ドバト)	0/31	ND(<40-160) μg/kg
	影響実態調査(アカネズミ)	0/30	ND(<80-200) μg/kg
	影響実態調査(タヌキ)	0/15	ND(<40-640) μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	0/27	ND(<0.1-2) $\mu\text{g/L}$
底質調査	0/27	ND(<6-20) $\mu\text{g/kg}$

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)

作用濃度	作用内容
22,400 $\mu\text{g/L}$ *	5～7日間の曝露期間中のオオミジンコ( <i>Daphnia magna</i> )の脱皮に影響を与えた濃度 <sup>1)</sup>
50,000 $\mu\text{g/L}$ **	7日間曝露後、シオマネキ類( <i>Uca pugilator</i> )の上皮及び肝膵臓組織のキトビアーゼ活性を阻害した濃度 <sup>2)</sup>

\*この作用濃度は信頼性が低かった。

\*\*この作用濃度は信頼性がやや低かった。

なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。

## 5. まとめ

水質及び底質調査（建設省）の一部で検出された。大気調査においては何れの試料からも検出された。水質、底質（建設省）及び大気調査において測定された最高値は、1.平成10年度の測定値を下回っていた。

## 6. 参考文献

- 1) Zou, E. and M. Fingerman (1997) Effects of estrogenic xenobiotics on molting of the water flea, *Daphnia magna*. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, 38, 281-285
- 2) Zou, E. and M. Fingerman (1999) Effects of exposure to diethyl phthalate, 4-(tert)-octylphenol, and 2,4,5-trichlorobiphenyl on activity of chitinase in the epidermis and hepatopancreas of the fiddler crab, *Uca pugilator*. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part c*, 122, 115-120

## 43. ベンゾ(a)ピレン

### 使用量およびその推移

非意図的生成物

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	0/170	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（冬季）	44/48	ND(<1) - 890 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（夏期）	6/11	ND(<1) - 27 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（秋期）	5/11	ND(<1) - 170 $\mu\text{g/kg}$

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	一般水域・重点水域調査（秋季）	8/275	ND(<0.01)–0.02 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	野生生物影響実態調査（コイ）	0/3	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	野生生物影響実態調査（カエル類）	0/19	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（秋季）	122/152	ND(<1)–3,800 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（後期）	4/5	ND(<1)–39 $\mu\text{g/kg}$
	野生生物影響実態調査（コイ）	3/3	1–45 $\mu\text{g/kg}$
	野生生物影響実態調査（カエル類）	11/12	ND(<5)–341 $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<5) $\mu\text{g/kg}$
	野生生物影響実態調査（カエル類）	7/7	70–258 $\mu\text{g/kg}$
大気調査	大気環境分析調査	198/198	0.021–2.4 $\text{ng/m}^3$
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	0/141	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
野生生物調査	影響実態調査（コイ）	0/145	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（カエル類）	0/80	ND(<2-5) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（クジラ類）	0/26	ND(<5) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（アザラシ類）	0/19	ND(<5) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（ドバト）	0/32	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（トビ）	0/26	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（シマフクロウ）	0/5	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（猛禽類）	0/30	ND(<2-10) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（アカネズミ）	0/30	ND(<2-4) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（ニホンザル）	0/41	ND(<2-4) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（クマ類）	0/17	ND(<2-5) $\mu\text{g/kg}$
	影響実態調査（タヌキ）	0/15	ND(<2-8) $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	1/306	ND(<0.002-1)–0.017 $\mu\text{g/L}$
底質調査	256/309	ND(<0.1-300)–3,700 $\mu\text{g/kg}$
大気調査	36/39	ND(<0.02-0.3)–6.37ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査（魚類）	1/167	ND(<0.3-230)–8 $\mu\text{g/kg}$

## 3. 海外の汚染水域での測定値

調査区分	調査場所	検出濃度範囲
底質調査	五大湖	31.7–64.0 $\mu\text{g/kg}$ 64.0 $\mu\text{g/kg}$ は、1986年スペリオール湖での測定値 <sup>1)</sup>

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告は得られなかった。

## 5. まとめ

底質調査の一部で検出されたが、水質調査における測定値は検出限界値未満であった。底質調査において測定された最高値は、3.海外の汚染水域での測定値を上回っていたが、1.平成10年度及び2.国内の過去の測定値を下回っていた。なお、平成10年度の水質、土壌及び大気調査で検出された。

## 6. 参考文献

- 1) Baker, J. E. and S. J. Eisenreich(1989) PCBs and PAHs as tracers of particulate dynamics in large lakes. J. Great Lake Res., Vol.15, No.1, 84-103

## 44. 2,4-ジクロロフェノール

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	25/170	ND(<0.01) - 0.07 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（夏期）	2/12	ND(<0.01) - 0.05 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（秋期）	2/12	ND(<0.01) - 0.07 $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（冬季）	0/48	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	15/130	ND(<0.01)–0.20 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（前期）	1/5	ND(<0.01)–0.01 $\mu\text{g/L}$
	一般水域・重点水域調査（秋季）	23/275	ND(<0.01)–0.05 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（秋季）	4/152	ND(<5)–230 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<5) $\mu\text{g/kg}$
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	1/141	ND(<1.5)–1.6 $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	0/57	ND(<0.02-40) $\mu\text{g/L}$
底質調査	0/57	ND(<3-4,000) $\mu\text{g/kg}$
大気調査	0/18	ND(0.5-10) $\text{ng/m}^3$

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

#### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)

作用濃度	作用内容
1,550 µg/L	14 日間曝露後、オオミジンコ( <i>Daphnia magna</i> )で胎仔数と産仔数に有意な減少が認められた濃度 <sup>1)</sup>

#### 5. まとめ

底質調査における測定値は検出限界値未満であったが、水質調査の一部で検出された。水質調査において測定された最高値は 1.平成 10 年度の測定値を下回っていた。なお、平成 10 年度の底質及び水生生物調査の一部で検出された。水質調査で測定された最高濃度 0.20 µg/L（平成 10 年度）と内分泌攪乱作用を示すと疑われた水中濃度 1,550 µg/L を分類するために暫定的に比較するとその比は 0.001 未満であった。

#### 6. 参考文献

- 1)Gersich,F.M. and D.P.Milazzo(1990)Evaluation of a 14-day static renewal toxicity test with *Daphnia magna* STRAUS.Arch.Environ.Contam. Toxicol.,Vol.19, No.1, 72-76

## 45. アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル

### 使用量およびその推移

アジピン酸系可塑剤の使用量は 30,442t(1998 年)で前年(33,282t)と比較して減少傾向であった。アジピン酸ジ-2-エチルヘキシルの生産量が不明のため、比較はできなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(冬季)	0/170	ND(<0.01) μg/L
	建設省実態調査(春期)	1/31	ND(<0.01) - 0.01 μg/L
	建設省実態調査(夏期)	21/261	ND(<0.01) - 0.05 μg/L
	建設省実態調査(秋期)	18/140	ND(<0.01) - 0.03 μg/L
	建設省実態調査(冬期)	6/31	ND(<0.01) - 0.04 μg/L
底質調査	一般水域調査(冬季)	5/48	ND(<10) - 34 μg/kg
	建設省実態調査(夏期)	0/20	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査(秋期)	0/11	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	18/20	ND(<0.74) - 5.3ng/m <sup>3</sup>

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(夏季)	3/130	ND(<0.05)-0.07 μg/L
	建設省実態調査(前期)	127/256	ND(<0.01)-0.16 μg/L
	一般水域・重点水域調査(秋季)	39/275	ND(<0.01)-1.8 μg/L
	建設省実態調査(後期)	44/261	ND(<0.01)-0.05 μg/L
	野生生物影響実態調査(加川類)	1/19	ND(<0.01)-0.33 μg/L
底質調査	一般水域調査(秋季)	12/152	ND(<10)-66 μg/kg
	建設省実態調査(後期)	1/20	ND(<10)-10 μg/kg
	野生生物影響実態調査(コイ)	1/3	ND(<10)-14 μg/kg
	野生生物影響実態調査(加川類)	0/12	ND(<13-70) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
	野生生物影響実態調査(加川類)	0/7	ND(<15-24) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	140/178	ND(<0.58)-21ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 (魚類)	一般水域調査(秋季)	0/141	ND(<10) μg/kg
野生生物調査	影響実態調査(コイ)	0/145	ND(<10) μg/kg
	影響実態調査(ドバト)	0/31	ND(<40-160) μg/kg
	影響実態調査(アカネズミ)	0/30	ND(<80-200) μg/kg
	影響実態調査(タヌキ)	4/15	ND(<40-640)-57,230 μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	0/63	ND(<0.09-25) $\mu\text{g/L}$
底質調査	12/63	ND(<4.1-1,000)-100 $\mu\text{g/kg}$
大気調査	104/146	ND(<0.1-1)-26ng/m <sup>3</sup>

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

水質（建設省）底質及び大気調査において一部で検出された。水質調査（建設省）において測定された最高値は 1.平成 10 年度の測定値を下回っていた。底質及び大気調査において測定された最高値は 1.平成 10 年度及び 2.国内の過去の測定値を下回っていた。なお、平成 10 年度の野生生物調査の一部で検出された。

## 6. 参考文献

- 1)Camanzo,J.,C.P.Rice,D.J.Jude and R.Rossmann(1987)Organic priority pollutants in nearshore fish from 14 Lake Michigan tributaries and embayments,1983.J.Great Lakes Res.,Vol.13,No.3,296-309

## 46. ベンゾフェノン

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	28/170	ND(<0.01) - 0.17 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（夏期）	3/12	ND(<0.01) - 0.84 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（秋期）	3/12	ND(<0.01) - 0.15 $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（冬季）	16/48	ND(<1) - 29 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（夏期）	3/11	ND(<1) - 4.0 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（秋期）	2/11	ND(<1) - 7.8 $\mu\text{g/kg}$

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	12/130	ND(<0.01)–0.09 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（前期）	2/5	ND(<0.01)–0.01 $\mu\text{g/L}$
	一般水域・重点水域調査（秋季）	59/275	ND(<0.01)–0.16 $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（後期）	3/5	ND(<0.01)–0.02 $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（秋季）	4/152	ND(<1)–4 $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（後期）	1/5	ND(<1)–4.8 $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	8/94	ND(<1)–3 $\mu\text{g/kg}$
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	3/141	ND(<1)–4 $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	0/15	ND(<0.1-0.2) $\mu\text{g/L}$
底質調査	0/15	ND(<20) $\mu\text{g/kg}$

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られなかった。なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。
  
5. まとめ  
水質及び底質調査の一部で検出された。水質（建設省）及び底質調査において測定された最高値は 1.平成 10 年度及び 2.国内の過去の測定値を上回っていた。

## 47. 4-ニトロトルエン

### 使用量およびその推移

使用量は2,500t(1989年推定値)で前年(2,500t推定値)と比較して横這いであった。  
 環境中濃度に関する規制  
 環境中濃度に関する規制はない。

### 1. 全国一斉調査結果

#### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(冬季)	8/170	ND(<0.01) - 0.63 µg/L
	建設省実態調査(夏期)	0/12	ND(<0.01) µg/L
	建設省実態調査(秋期)	1/12	ND(<0.01) - 0.01 µg/L
底質調査	一般水域調査(冬季)	1/48	ND(<1) - 4 µg/kg
	建設省実態調査(夏期)	0/11	ND(<1) µg/kg
	建設省実態調査(秋期)	1/11	ND(<1) - 3.5 µg/kg

#### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(夏季)	2/130	ND(<0.01)-0.09 µg/L
	建設省実態調査(前期)	0/5	ND(<0.01) µg/L
	一般水域・重点水域調査(秋季)	3/275	ND(<0.01)-0.21 µg/L
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<0.01) µg/L
底質調査	一般水域調査(秋季)	0/152	ND(<1) µg/kg
	建設省実態調査(後期)	0/5	ND(<1) µg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	7/94	ND(<1)-2 µg/kg
水生生物調査(魚類)	一般水域調査(秋季)	1/141	ND(<1)-5 µg/kg

### 2. 国内の過去の測定値

調査区分	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	2/127	ND(<0.03-0.4)-0.21 µg/L
底質調査	3/116	ND(<2-15)-38 µg/kg
大気調査	1/73	ND(2-20)-9ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査(魚類)	1/116	ND(<3-7.5)-4.8 µg/kg

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られ  
なかった。

5. **まとめ**

水質及び底質調査の一部で検出された。水質調査において測定された最高値は 1.  
平成 10 年度及び 2.国内の過去の測定値を上回っていた。底質調査において測定  
された最高値は 1.平成 10 年度の測定値を上回っていたが、2.国内の過去の測定  
値を下回っていた。なお、平成 10 年度の土壌及び水生生物調査で検出された。

## 48. オクタクロロスチレン

### 使用量およびその推移

有機塩素系化合物の副生物

使用量およびその傾向は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	0/170	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.03) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.03) $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（冬季）	0/48	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.03) $\mu\text{g/L}$
	一般水域・重点水域調査（秋季）	0/275	ND(<0.01) $\mu\text{g/L}$
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.03) $\mu\text{g/L}$
底質調査	一般水域調査（秋季）	0/152	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) $\mu\text{g/kg}$
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	2/141	ND(<2)–12 $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

調査区分	調査場所	検出濃度範囲
水質調査	五大湖	0.0047ng/ L 0.0047ng/ L は、1986 年オンタリオ湖での測定値 <sup>1)</sup>
底質調査	五大湖	ND(不明)–15 µ g/kg 15 µ g/kg は、1982 年オンタリオ湖での測定値 <sup>2)</sup>
魚類調査	五大湖	5.5–263 µ g/kg 263 µ g/kg は、1977 年オンタリオ湖で採集されたマス類 Lake trout( <u>Salvelinus namaycush</u> )での測定値 <sup>3)</sup>
	北海	150 µ g/kg 150 µ g/kg は、Elbe estuary 採集されたカレイ類 <u>Platichthys flesus</u> での測定値 <sup>4)</sup>

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られなかった。

### 5. まとめ

水質及び底質調査において測定値は検出限界値未満であった。なお、平成 10 年度の水生生物調査（魚類）の一部で検出された。

### 6. 参考文献

- 1) Oliver, B.G and A.J.Niimi (1988) Trophodynamic of analysis of polychlorinated biphenyl congeners and other chlorinated hydrocarbons in the Lake Ontario ecosystem. Environ.Sci. Technol., Vol.22,388-397
- 2) Oliver, B.G. and M.N.Carlton (1984) Chlorinated organic contaminants on settling particulates in the Niagara River vicinity of Lake Ontario. Environ.Sci. Technol., Vol.18,903-908
- 3) Huestis, S.Y., M.R.Servos, D.M.Whittle and D.G.Dixon (1996) Temporal age-related trends in levels of polychlorinated biphenyl congeners and organochlorine contaminants in Lake Ontario lake trout (Salvelinus namaycush). J.Great Lakes Res., Vol.22, No.2, 310-330
- 4) Luckas, B. and U.Harms (1987) Characteristic levels of chlorinated hydrocarbons and trace metals in fish from coastal waters of North and Baltic Sea. Int.J. Environ. Anal. Chem., Vol.29, 215-225

## 49.アルディカーブ（アルジカルブ）

### 使用量およびその推移

農薬としては未登録

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

#### 1. 全国一斉調査結果

国内の登録実績がなく農薬以外の用途がないことから調査対象から除外した。

#### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

#### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

#### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）は得られなかった。なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。

#### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 50.ベノミル

### 使用量およびその推移

使用量は原体 202t 及び製剤 342t(1998 年)で前年は原体 196t 及び製剤 338t であった。製剤の有効成分含有率が不明であるため、比較はできなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	16/249	ND(<0.07)–0.3 µg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	9/249	ND(<0.07)–0.76 µg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	17/249	ND(<0.05)–0.48 µg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	8/94	ND(<3)–12 µg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	6/94	ND(<1)–15 µg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	1/48	ND(<2)–4 µg/kg

注) ベノミルは環境中で速やかにカルベンダジムに分解される。また、化学的に類似した構造を持つ化学物質は代謝物としてカルベンダジムを生成する。今回の調査ではカルベンダジムで定量しており、これらの類似化合物に由来するカルベンダジムとの含量として測定された。

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 51. キーポン（クロルデコン、ケポン）

### 使用量およびその推移

農薬としては未登録

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

#### 1. 全国一斉調査結果

国内の登録実績がなく農薬以外の用途がないことから調査対象から除外した。

#### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

#### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

#### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）

作用濃度	作用内容
1 $\mu$ g/kg*	26日間曝露後、メダカ( <i>Oryzias latipes</i> )で産卵遅延が認められた濃度 <sup>1)</sup>

\*この作用濃度は信頼性が低かった。

なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告も得られている。

#### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

#### 6. 参考文献

- 1) Murty, A.S. (1986) Toxicity of pesticides to fish. Vol. , . Boca Raton, FL: CRC Press Inc., Vol. , 82p

## 52.マンゼブ（マンコゼブ）

### 使用量およびその推移

使用量は原体 2,930t 及び製剤 1,090t(1998 年)で前年(原体 4,070t 及び製剤 774t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

### 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

#### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査（第一回）	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査（第二回）	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査（第三回）	0/249	ND(<0.2) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	9/94	ND(<10)–100 μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	2/94	ND(<10)–135 μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) マンゼブ、マンネブ及びジネブについては、エチレンビスジチオカルバミン酸ナトリウムにした後、誘導体化して測定している関係上、その含量で測定された。また、同じナトリウム塩を生じる他の化学物質由来のものを検出している可能性がある。

### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）は得られなかった。

### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 53.マンネブ

### 使用量およびその推移

使用量は原体 811t(1998 年)で前年(原体 838t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	9/94	ND(<10)–100 μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	2/94	ND(<10)–135 μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) マンゼブ、マンネブ及びジネブについては、エチレンビスジチオカルバミン酸ナトリウムにした後、誘導体化して測定している関係上、その含量で測定された。また、同じナトリウム塩を生じる他の化学物質由来のものを検出している可能性がある。

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 54.メチラム

### 使用量およびその推移

農薬登録失効(1975年農薬法)

最後の原体使用量は3t(1973年)で前々年(1t)と比較して増加傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

#### 1. 全国一斉調査結果

水資料を対象とした場合、自然由来等の夾雑物質との関係から定量性が得られる残留分析法がないことから調査対象から除外した。

#### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

#### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

#### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

#### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 55. メトリブジン

### 使用量およびその推移

原体使用量は36t(1998年)で前年(6t)と比較して増加傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) µg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.05) µg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.05) µg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) µg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<1) µg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<5) µg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

平成10年度の何れの調査においても測定値は検出限界値未満であった。

## 56.シペルメトリン

### 使用量およびその推移

使用量は原体 8t 及び製剤 6t(1998 年)で前年は原体 9t であった。製剤の有効成分含有率が不明であるため、比較はできなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) $\mu\text{g/L}$
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.05) $\mu\text{g/L}$
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.05) $\mu\text{g/L}$
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<2) $\mu\text{g/kg}$
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<8) $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

平成10年度の何れの調査においても測定値は検出限界値未満であった。

## 57. エスフェンバレレート

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

### 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

#### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<2) μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) 58. フェンバレレートに含まれるため参考としてフェンバレレートの測定結果を示した。

### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

作用濃度	作用内容
1 μg/L *	79 日間曝露後、成熟したブルーギル ( <i>Lepomis macrochirus</i> ) で産卵遅延が認められた濃度 <sup>1)</sup>

\* この作用濃度は信頼性がやや低かった。

### 5. まとめ

平成10年度の何れの調査においても測定値は検出限界値未満であった。

### 6. 参考文献

- 1) Tanner, D.K and M.L. Knuth (1996) Effects of esfenvalerate on the reproductive success of the bluegill sunfish, *Lepomis macrochirus* in littoral enclosures. Arch. Environ. Contam. Toxicol., Vol. 31, No. 2, 244-251

## 58. フェンバレレート

### 使用量およびその推移

原体使用量は 25t(1998 年)で前年(28t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

### 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

#### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<2) μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) 57. エスフェンバレレートを含む

### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(底質中濃度)の報告(生体内試験)

作用濃度	作用内容
150 μg/kg <sup>*</sup>	21 日間の曝露期間中のケンミジンコ類( <i>Amphiascus tenuiremis</i> )の成熟雌数が増加した濃度 <sup>1)</sup>

<sup>\*</sup> この作用濃度は信頼性が低かった。

なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告も得られている。

### 5. まとめ

平成 10 年度の何れの調査においても測定値は検出限界未満であった。

### 6. 参考文献

- 1) Strawbridge, S., B. C. Coull and G. T. Chandler (1992) Reproductive output of a meiobenthic copepod exposed to sediment-associated fenvalerate. Arch.

Environ. Contam. Toxicol., Vol. 23, No. 3, 295-300

## 59.ペルメトリン

### 使用量およびその推移

原体使用量は16t(1998年)で前年(17t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.05) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<20) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	1/94	ND(<2)–9 μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	2/48	ND(<8)–9 μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。

## 5. まとめ

平成10年度の水質及び底質調査において測定値は検出限界値未満であったが、土壌及び水生生物調査の一部で検出された。

## 60.ピンクロゾリン

### 使用量およびその推移

農薬登録失効(1998年農薬法)

最後の使用量は原体 39t 及び製剤 72t(1995年)で前年(原体 57t 及び製剤 72t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.05) $\mu\text{g/L}$
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<20) $\mu\text{g/kg}$
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<1) $\mu\text{g/kg}$
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) $\mu\text{g/kg}$

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

## 5. まとめ

平成10年度の何れの調査においても測定値は検出限界値未満であった。

## 61.ジネブ

### 使用量およびその傾向

原体使用量は1,284t(1993年)で前年(638t)と比較して減少傾向であった。

### 環境濃度に関する規制

環境濃度に関する規制はない。

### 1. 緊急全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	9/94	ND(<10)–100 μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	2/94	ND(<10)–135 μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) マンゼブ、マンネブ及びジネブについては、エチレンビスジチオカルバミン酸ナトリウムにした後、誘導体化して測定している関係上、その含量で測定された。また、同じナトリウム塩を生じる他の化学物質由来のものを検出している可能性がある。

### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

### 4. 内分泌攪乱作用に関する水中濃度の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用に関する水中濃度の報告(生体内試験)は得られなかった。

### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 62.ジラム

### 使用量およびその推移

原体使用量は348t(1998年)で前年(416t)と比較して減少傾向であった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

### 1. 全国一斉調査結果<sup>注)</sup>

#### 1.1. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	農薬等の環境残留実態調査(第一回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第二回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
	農薬等の環境残留実態調査(第三回)	0/249	ND(<0.2) μg/L
底質調査	農薬等の環境残留実態調査	2/94	ND(<10) - 50 μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
水生生物調査 (魚類)	農薬等の環境残留実態調査	0/48	ND(<10) μg/kg

注) ジラムについては、ジメチルジチオカルバミン酸ナトリウムにした後、誘導体化して測定している関係上、同じナトリウム塩を生じる他の化学物質由来のものを検出している可能性がある。

### 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

### 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

### 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。

### 5. まとめ

今回の検討からは除外した。

## 63. フタル酸ジペンチル

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	0/170	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（冬季）	0/48	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	0/20	ND(<0.41)ng/m <sup>3</sup>

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
	一般水域・重点水域調査（秋季）	0/275	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（秋季）	1/152	ND(<10)–16 μg/kg
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	11/178	ND(<0.16)–1.5ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	0/141	ND(<10) μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染海域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られ  
なかった。

5. **まとめ**

水質及び底質調査において測定値は検出限界値未満であった。なお、平成 10 年  
度の底質及び大気調査において一部で検出された。

## 64. フタル酸ジヘキシル

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	0/170	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（冬季）	1/48	ND(<10) - 11 μg/kg
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	0/20	ND(<16)ng/m <sup>3</sup>

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
	一般水域・重点水域調査（秋季）	0/275	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（秋季）	1/152	ND(<10)-17 μg/kg
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	0/178	ND(<9.6)ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	0/141	ND(<10) μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染海域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られ  
なかった。

5. **まとめ**

水質及び大気調査における測定値は検出限界値未満であったが、底質調査の一部  
で検出された。底質調査において測定された最高値は 1.平成 10 年度の測定値を  
下回っていた。

## 65．フタル酸ジブロピル

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1． 全国一斉調査結果

### 1.1． 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	0/170	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（冬季）	0/48	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	0/20	ND(<0.19)ng/m <sup>3</sup>

### 1.2． 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
	一般水域・重点水域調査（秋季）	0/275	ND(<0.1) μg/L
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.2) μg/L
底質調査	一般水域調査（秋季）	0/152	ND(<10) μg/kg
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<10) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	0/94	ND(<10) μg/kg
大気調査	大気環境分析調査	11/178	ND(<0.29)–2.0ng/m <sup>3</sup>
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	0/141	ND(<10) μg/kg

## 2． 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3． 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染海域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)  
内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られ  
なかった。

5. まとめ

何れの調査においても測定値は検出限界値未満であった。なお、平成 10 年度の  
大気調査において一部で検出された。

## 66. スチレンの2量体

### 使用量およびその推移

スチレン樹脂の未反応物  
使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査 (冬季)	1,3-ジフェニルプロパン	1/170	ND(<0.01) - 0.03 µg/L
		cis-1,2-ジフェニルプロパン	0/170	ND(<0.01) µg/L
		trans-1,2-ジフェニルプロパン	2/170	ND(<0.01) - 0.03 µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/170	ND(<0.01) µg/L
		スレン2量体の合計	2/170	ND - 0.06 µg/L
底質調査	一般水域調査 (冬季)	1,3-ジフェニルプロパン	9/48	ND(<1)-8 µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルプロパン	1/48	ND(<1) - 3 µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルプロパン	4/48	ND(<1)-15 µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	14/48	ND(<1)-13 µg/kg
		スレン2量体の合計	15/48	ND - 30 µg/kg

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査(夏季)	1,3-ジフェニルプロパン	0/130	ND(<0.01) µg/L
		cis-1,2-ジフェニルプロパン	0/130	ND(<0.01) µg/L
		trans-1,2-ジフェニルプロパン	0/130	ND(<0.01) µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/130	ND(<0.01) µg/L
		スレン2量体の合計	0/130	ND
	建設省実態調査 (前期)	1,3-ジフェニルプロパン	0/5	ND(<0.01) µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/5	ND(<0.01) µg/L
		スレン2量体の合計	0/5	ND
	一般水域・重点水域調査(秋季)	1,3-ジフェニルプロパン	1/275	ND(<0.01)-0.01 µg/L
		cis-1,2-ジフェニルプロパン	0/275	ND(<0.01) µg/L
		trans-1,2-ジフェニルプロパン	1/275	ND(<0.01)-0.01 µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/275	ND(<0.01) µg/L
		スレン2量体の合計	2/275	ND-0.01 µg/L

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	建設省実態調査 (後期)	1,3-ジフェニルペン	0/261	ND(<0.01) µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	1/261	ND(<0.01)–0.02 µg/L
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/261	ND(<0.01) µg/L
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	1/261	ND(<0.01)–0.01 µg/L
		スレン2量体の合計	2/261	ND–0.02 µg/L
	野生生物影響実態 調査 (カエル類)	1,3-ジフェニルペン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		スレン2量体の合計	0/19	ND
底質調査	一般水域調査 (秋季)	1,3-ジフェニルペン	1/152	ND(<1)– 1 µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/152	ND(<1) µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	2/152	ND(<1)– 2 µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	1/152	ND(<1)– 3 µg/kg
		スレン2量体の合計	4/152	ND– 3 µg/kg
	建設省実態調査 (後期)	1,3-ジフェニルペン	0/20	ND(<1) µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/20	ND(<1) µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/20	ND(<1) µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	1/20	ND(<1)–1.9 µg/kg
		スレン2量体の合計	1/20	ND–1.9 µg/kg
	野生生物影響実態 調査 (コイ)	1,3-ジフェニルペン	0/3	ND(<1) µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/3	ND(<1) µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/3	ND(<1) µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/3	ND(<1) µg/kg
		スレン2量体の合計	0/3	ND
	野生生物影響実態 調査 (カエル類)	1,3-ジフェニルペン	0/12	ND(<5) µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/12	ND(<5) µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/12	ND(<5) µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/12	ND(<5) µg/kg
		スレン2量体の合計	0/12	ND
土壌調査	農薬等の環境残留 実態調査	1,3-ジフェニルペン	0/94	ND(<5) µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/94	ND(<5) µg/kg
		1,2-ジフェニルシクロブタン	0/94	ND(<5) µg/kg
		スレン2量体の合計	0/94	ND
	野生生物影響実態 調査 (カエル類)	1,3-ジフェニルペン	0/7	ND(<5) µg/kg
		cis-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/7	ND(<5) µg/kg
		trans-1,2-ジフェニルシクロブタン	0/7	ND(<5) µg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/7	ND(<5) µg/kg
		スレン2量体の合計	0/7	ND

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水生生物調査 (魚類)	一般水域調査 (秋季)	1,3-ジフェニル・DHP	0/141	ND(<1) μg/kg
		cis-1,2-ジフェニル・DHP	0/141	ND(<1) μg/kg
		trans-1,2-ジフェニル・DHP	11/141	ND(<1)–9 μg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	1/141	ND(<1)–3 μg/kg
		スルノ2量体の合計	11/141	ND–12 μg/kg
野生生物調査	影響実態調査 (コイ)	1,3-ジフェニル・DHP	0/145	ND(<1) μg/kg
		cis-1,2-ジフェニル・DHP	0/145	ND(<1) μg/kg
		trans-1,2-ジフェニル・DHP	0/145	ND(<1) μg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/145	ND(<1) μg/kg
		スルノ2量体の合計	0/145	ND
	影響実態調査 (ドバト)	1,3-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<4-20) μg/kg
		cis-1,2-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<4-20) μg/kg
		trans-1,2-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<4-20) μg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/30	ND(<4-20) μg/kg
		スルノ2量体の合計	0/30	ND
	影響実態調査 (アカネズミ)	1,3-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<8-20) μg/kg
		cis-1,2-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<8-20) μg/kg
		trans-1,2-ジフェニル・DHP	0/30	ND(<8-20) μg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/30	ND(<8-20) μg/kg
		スルノ2量体の合計	0/30	ND
	影響実態調査 (タヌキ)	1,3-ジフェニル・DHP	1/15	ND(<4-70)–4 μg/kg
		cis-1,2-ジフェニル・DHP	0/15	ND(<4-70) μg/kg
		trans-1,2-ジフェニル・DHP	0/15	ND(<4-70) μg/kg
		2,4-ジフェニル-1-ブテン	0/15	ND(<4-70) μg/kg
		スルノ2量体の合計	1/15	ND–4 μg/kg

2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果(水中濃度)の報告(生体内試験)は得られなかった。

5. まとめ

水質及び底質調査の一部で検出された。水質及び底質調査で測定された最高値は1.平成10年度の測定値を上回っていた。なお、平成10年度の水生生物調査及び

野生生物調査の一部で検出された。

## 66. スチレンの3量体

### 使用量およびその推移

スチレン樹脂の未反応物

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査 (冬季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	1/170	ND(<0.01) - 0.05 µg/L
		1a-フェニル-4a-(1-フェニルフェニル)テトラリン	1/170	ND(<0.01) - 0.02 µg/L
		1a-フェニル-4e-(1-フェニルフェニル)テトラリン	1/170	ND(<0.01) - 0.04 µg/L
		1e-フェニル-4a-(1-フェニルフェニル)テトラリン	1/170	ND(<0.01) - 0.02 µg/L
		1e-フェニル-4e-(1-フェニルフェニル)テトラリン	1/170	ND(<0.01) - 0.02 µg/L
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/170	ND(<0.01) µg/L
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/170	ND(<0.01) µg/L
		スレン3量体の合計	1/170	ND - 0.15 µg/L
底質調査	一般水域調査 (冬季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	31/48	ND(<1) - 52 µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1-フェニルフェニル)テトラリン	13/48	ND(<1) - 14 µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1-フェニルフェニル)テトラリン	29/48	ND(<1) - 35 µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1-フェニルフェニル)テトラリン	14/48	ND(<1) - 23 µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1-フェニルフェニル)テトラリン	22/48	ND(<1) - 20 µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	4/48	ND(<1) - 3 µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	6/48	ND(<1) - 4 µg/kg
		スレン3量体の合計	34/48	ND - 136 µg/kg

1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査 (夏季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	7/130	ND(<0.01)–0.05 µg/L
		1,3,5-トリフェニルシクロヘキサン	0/130	ND(<0.05) µg/L
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	6/130	ND(<0.01)–0.04 µg/L
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン、 1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン、 1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリンの 合計	7/130	ND(<0.05)–0.22 µg/L
		スルソ3量体の合計	7/130	ND–0.30 µg/L
	建設省実態調査 (前期)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/5	ND(<0.01) µg/L
		スルソ3量体の合計	0/5	ND
	一般水域・重点水 域調査(秋季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	1/275	ND(<0.01)–0.02 µg/L
		1,3,5-トリフェニルシクロヘキサン	0/174	ND(<0.01) µg/L
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/101	ND(<0.01) µg/L
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/101	ND(<0.01) µg/L
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	1/275	ND(<0.01)–0.02 µg/L
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/275	ND(<0.01) µg/L
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/275	ND(<0.01) µg/L
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	1/275	ND(<0.01)–0.01 µg/L
		スルソ3量体の合計	1/275	ND–0.05 µg/L
	建設省実態調査 (後期)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	1/261	ND(<0.01)–0.01 µg/L
		スルソ3量体の合計	1/261	ND–0.01 µg/L
	野生生物影響実 態調査 (カエル類)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/19	ND(<0.01) µg/L
		スルソ3量体の合計	0/19	ND

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲	
底質調査	一般水域調査 (秋季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	33/152	ND(<1)–42 µg/kg	
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/152	ND(<1) µg/kg	
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/152	ND(<1) µg/kg	
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	2/152	ND(<1)–4 µg/kg	
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	10/152	ND(<1)–12 µg/kg	
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/152	ND(<1) µg/kg	
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	13/152	ND(<1)–6 µg/kg	
		スルソ 3 量体の合計	37/152	ND–42 µg/kg	
	建設省実態調査 (後期)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	5/20	ND(<1)–4.1 µg/kg	
		スルソ 3 量体の合計	5/20	ND–4.1 µg/kg	
	野生生物影響実態調査 (コイ)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/3	ND(<1) µg/kg	
		スルソ 3 量体の合計	0/3	ND	
	野生生物影響実態調査 (カエル類)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/12	ND(<5) µg/kg	
		スルソ 3 量体の合計	0/12	ND	
	土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	2/94	ND(<5)–7 µg/kg
			テトラリン(1)	0/94	ND(<5) µg/kg
テトラリン(2)			0/94	ND(<5) µg/kg	
テトラリン(3)			0/94	ND(<5) µg/kg	
テトラリン(4)			0/94	ND(<5) µg/kg	
スルソ 3 量体の合計			2/94	ND–7 µg/kg	
野生生物影響実態調査 (カエル類)		2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルエチル)テトラリン	0/7	ND(<5) µg/kg	
		スルソ 3 量体の合計	0/7	ND	

調査区分	調査名	同族体名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水生生物調査 (魚類)	一般水域調査 (秋季)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	15/141	ND(<1)–11 µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	8/141	ND(<1)– 2 µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	22/141	ND(<1)–11 µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	2/141	ND(<1)– 2 µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	5/141	ND(<1)– 4 µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	1/141	ND(<1)– 1 µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	18/141	ND(<1)–49 µg/kg
		スルソ 3 量体の合計	39/141	ND–56 µg/kg
野生生物調査	影響実態調査 (コイ)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/145	ND(<1) µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/145	ND(<1) µg/kg
		スルソ 3 量体の合計	0/145	ND
	影響実態調査 (ドバト)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<4-20) µg/kg
		スルソ 3 量体の合計	0/30	ND
	影響実態調査 (アカネズミ)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/30	ND(<8-20) µg/kg
		スルソ 3 量体の合計	0/30	ND
	影響実態調査 (タヌキ)	2,4,6-トリフェニル-1-ヘキセン	7/15	ND(<4-70)–242 µg/kg
		1e,3e,5a-トリフェニルシクロヘキサン	4/15	ND(<4-70)–41 µg/kg
		1e,3e,5e-トリフェニルシクロヘキサン	4/15	ND(<4-70)–44 µg/kg
		1a-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/15	ND(<4-70) µg/kg
		1a-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	1/15	ND(<4-70)–12 µg/kg
		1e-フェニル-4a-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/15	ND(<4-70) µg/kg
		1e-フェニル-4e-(1'-フェニルフェル)テトラリン	0/15	ND(<4-70) µg/kg
		スルソ 3 量体の合計	7/15	ND–339 µg/kg

2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染水域での測定値は得られなかった。

4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃）の報告（生体内試験）

内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告（生体内試験）は得られなかった。

5. まとめ

水質及び底質調査の一部で検出された。水質調査において測定された最高値は 1. 平成 10 年度の測定値を下回っていた。底質調査において測定された最高値は 1. 平成 10 年度の測定値を上回っていた。なお、平成 10 年度の土壌、水生生物及び野生生物調査の一部で検出された。

## 67. n-ブチルベンゼン

### 使用量およびその推移

使用量に関する報告は得られなかった。

### 環境中濃度に関する規制

環境中濃度に関する規制はない。

## 1. 全国一斉調査結果

### 1.1. 平成11年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（冬季）	1/170	ND(<0.01) - 0.02 μg/L
	建設省実態調査（夏期）	0/12	ND(<0.01) μg/L
	建設省実態調査（秋期）	0/12	ND(<0.01) μg/L
底質調査	一般水域調査（冬季）	3/48	ND(<1) - 9 μg/kg
	建設省実態調査（夏期）	0/11	ND(<1) μg/kg
	建設省実態調査（秋期）	0/11	ND(<1) μg/kg

### 1.2. 平成10年度

調査区分	調査名	検出した試料数 / 調査試料数	検出濃度範囲
水質調査	一般水域調査（夏季）	0/130	ND(<0.01) μg/L
	建設省実態調査（前期）	0/5	ND(<0.01) μg/L
	一般水域・重点水域調査（秋季）	1/275	ND(<0.01) - 0.01 μg/L
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<0.01) μg/L
底質調査	一般水域調査（秋季）	0/152	ND(<1) μg/kg
	建設省実態調査（後期）	0/5	ND(<1) μg/kg
土壌調査	農薬等の環境残留実態調査	5/94	ND(<1) - 3 μg/kg
水生生物調査 （魚類）	一般水域調査（秋季）	12/141	ND(<1) - 11 μg/kg

## 2. 国内の過去の測定値

国内の過去の測定値は得られなかった。

## 3. 海外の汚染水域での測定値

海外の汚染海域での測定値は得られなかった。

## 4. 内分泌攪乱作用を示すと疑われた結果（水中濃度）の報告(生体内試験)

内分泌攪乱作用を示すと疑われた（水中濃度）の報告(生体内試験)は得られなかった。なお、内分泌攪乱作用に関する試験管内試験の報告は得られている。

## 5. まとめ

水質及び底質調査の一部で検出された。水質及び底質調査において測定された最高値は1.平成10年度の測定値を上回っていた。なお、平成10年度の土壌及び水生生物調査の一部で検出された。